



特集 三好市の医療を考える

私たちの大切な地域医療を守るために

今、三好市の医療体制や状況について、どれほどの方が興味を持ち、考えていただいているでしょうか、危機感や不安感を持っていらっしゃるでしょうか。

私たちは「お腹が痛い」、「頭が痛い」、「熱が出た」など、体の具合が悪くなれば診療してくれる医療機関があるため、常に安心という気持ちがあります。では、その安心がなくなったらどうでしょうか。突然の病に襲われたり、事故などで大ケガをしても治療してもらえない。長時間かけて病院に行かなければ診察が受けられない。不安要素がともも大きくなり、安心して生活が送れなくなり、そのような事態に陥らないためにも、前もっての対処が必要なのです。

人は病気にかからないために予防という努力を怠りません。地域医療も病気と同様に予防が必要なのです。地域医療が崩壊してしまつてからは取り返しがつきません。そのためにも、今の安心という気持ちを子や孫の代まで引き続けられるように大切にしていかなければなりません。

せん。それが、今という時間を生きている人間の使命ではないでしょうか。

地域医療の講演会などに行くと「地域医療は住民・医師・行政が協力しなければならぬ」とよく耳にします。三好市民の皆様が必要なのです。自分自身のためにも医療機関・行政とともに、安心した生活スタイルが構築できるよう、三者が心を一つにして取り組んでいけるように願わずにはいられません。

今回の特集では、三好市医師会長 田岡清三郎先生、徳島県立三好病院長 余喜多史郎先生、市立西祖谷山村診療所長 宮城亮先生に大変お忙しい中、ご協力をいただき、それぞれの目線から医療制度などについて語っていただきました。

お医者さんがいなくなった地域を想像したことがありますか。無くなつてしまつたものを再建するのはとても難しいことだと思います。医療崩壊という恐ろしい現象に襲われる前に、私たちが地域医療を守りましょう。

大病院において総合診療科が新設されています。専門化、細分化しすぎた医療で、特定の臓器疾患に限定せず、多角的に診療を行う総合診療科の存在が再認識されており、今後ますますかかりつけ医の役割が重要となつていくと思います。

——病診連携をどのようにお考えですか。

病診連携とは、病院は入院治療中心、診療所は外来治療中心に診療し、互いに連携をとりながら患者サービスを向上させる

システムです。我が国では、診療所と病院の機能分化が明確でなく、本来は近くの医療機関で対応できる患者さんが大病院へ通院し、現在の病院の外来は必要以上に混雑し、病院の本来の機能である入院治療、2次、3次救急にも支障が出ている状況です。病診連携が推進されれば、大病院の外来診療が減少するため勤務医の負担軽減にもつながり、結果的に公立病院の医師不足問題の解消にも寄与できます。ただ、私ども民間医療機関の

方も、病院から紹介された患者さんをフォローアップできる受け皿づくりも必要です。導入が予定されている医療情報ネットワークを活用し、医師会としても、三好病院と十分協議し、病診連携がよりスムーズに行えるように努力してまいります。

——医師会の役割は何ですか。

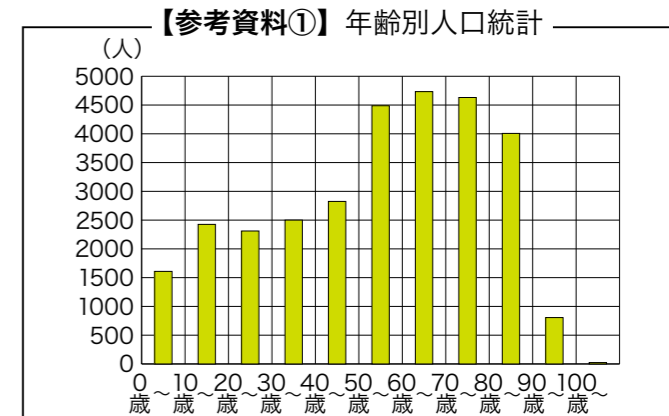
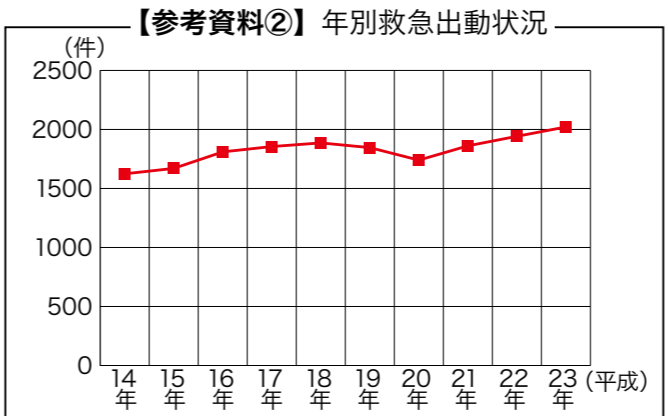
医師会の活動は、在宅当番医制度、市町村保健事業への協力、学校医、産業医、介護認定審査会、災害時の医療協力、保健啓蒙活動など多岐にわたっています。また、三好市医師会は独自に准看護学院を運営しています。

私は今年4月に会長に就任以来、公益法人としての医師会の役割は何かを常に考えてきました。就任時、病診連携の推進と市民への保健啓蒙活動を重点事項に取り上げました。

病診連携に關しましては三好病院と十分協議し、来年度から県が県西部で導入予定している医療情報ネットワークを活用し、推進したいと考えております。また、保健啓蒙活動は第1回市民公開講座を10月に開催し、次回は来年3月に山城町出身で川崎医大教授・園尾博司先



三好市医師会会長・田岡医院 田岡 清三郎 先生



特集 三好市の医療を考える



生に乳がんについての講演をお願いしています。

— 在宅当番医制度について教えてください。 —
 在宅当番医制度は、昭和52年より、旧三好郡内で毎日当番医を決めて初期救急を行っている制度です。しかし、時代の推移とともに現在の運用のままでは

— 三好病院の現状を教えてください。 —
 全国同様、本県においても医師の地域偏在や診療科偏在が深刻化し、医師の最適配置などが地域医療を確保するうえで大きな課題となっております。

— 三好病院の役割と今後の方向性についてどのようにお考えですか。 —
 当院の主な役割としては、「急性期医療」「救命救急医療」「がん医療」を担っております。

— 今後の、目指すべき地域医療とはどのようなことですか。 —
 地域医療は地域の特性にあった対策が必要です。三好市の場合、東西祖谷、山城の西部地域と池田以東とは地域の状況が異なります。西部地域におきましては、いわゆる過疎医療対策が必要です。今後とも人口減少が予想されますが、西祖谷山村診療所、大歩危診療所の役割がますます重要になってきます。過疎医療に対してはある程度

いのかという問題もあります。行政の方から、在宅当番医制度に代わるものとして現在徳島市医師会で行っているような、休日夜間診療所設置の要望がありました。医師会員の減少や高齢化（平均年齢59歳）などの問題があり実現できません。

— 今後、目指すべき地域医療とはどのようなことですか。 —
 地域医療は地域の特性にあった対策が必要です。三好市の場合、東西祖谷、山城の西部地域と池田以東とは地域の状況が異なります。西部地域におきましては、いわゆる過疎医療対策が必要です。今後とも人口減少が予想されますが、西祖谷山村診療所、大歩危診療所の役割がますます重要になってきます。過疎医療に対してはある程度

— 病診連携についてどのようにお考えですか。 —
 専門的な治療が必要なときは、紹介状を持参し、当院を受

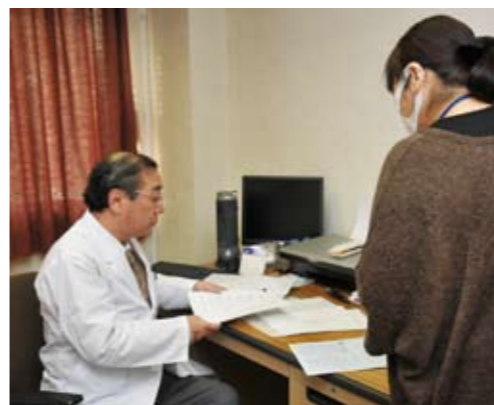
— がん医療についてどのようにお考えですか。 —
 これら救急医療・がん医療の充実を図り、新病院においては、「高度・専門医療に取り組み、四国中央部の医療の拠点病院」を目指します。



徳島県立三好病院 院長
 余喜多 史郎 先生

の公費の投入はやむをえないと思います。また、導入予定の医療情報ネットワークシステムを十分に活用し、地域中核病院（三好病院）と過疎地区の診療所の病診連携の推進、さらには遠隔画像診断システムの導入などが必要です。

再来年、三好病院の改築が完成しますが、県西部の地域完結型病院として充実させることを期待しています。完成のあかつきには、三好病院は地域医療支援病院として、民間医療機関と連携をとり、官民一体となった地域医療システムの再構築が必要だと思います。また、少子高齢化が進んだとはいえ、平成22年の統計によりますと、三好市、東みよし町で、年間259件の



【参考資料③】三好市内医療機関増減一覧

地区名	平成 16 年			平成 20 年			平成 24 年 (6/1 時点)		
	病院	診療所	計	病院	診療所	計	病院	診療所	計
三野	3	1	4	3	1	4	3	1	4
池田	4	12	18	3	10	13	3	10	13
山城	0	5	5	0	3	3	0	4	4
井川	0	3	3	0	3	3	0	2	2
西祖谷	0	1	1	0	1	1	0	1	1
東祖谷	0	2	2	0	1	1	0	1	1
三好市計	7	24	31	6	19	25	6	19	25

※平成 16 年～平成 24 年 6 月 1 日 病院 1 減、診療所 5 減

— 地域の開業医の先生方とは、現在でも連携を行っておりますが、これまで以上に連携を強化していきたいと考えておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

最後にになりましたが、定期的な検査や容態が悪くなったときなどは、地域の医師会の先生方から紹介状を書いていただき、来院してください。また、緊急の場合は、対応可能な限り受け入れますので、ご安心ください。

特集 三好市の医療を考える



市立西祖谷山村診療所 所長
宮城 亮 先生

——西祖谷山村診療所の状況について教えてください。

1日平均90人から100人前後の患者さんが受診されています。月・火曜日が川島病院から支援の先生が来てくださって、水・木曜日は私自身が診察をしています。金曜日には三好病院から外科と脳外科の先生が1週間おきに来てくれています。月曜日は糖尿病、水・木曜日は整形の患者さんが集中します。

——西祖谷山村診療所は訪問診療もされていますね。

往診のニーズは多いです。山

間地域では交通の便が悪いうえに、足腰が悪く、最寄りのバス停や道路まで出られない独居老人が多くいます。そういった方に往診しています。通常は施設へ入所となるような独居のご老人や、重度の障害を持たれた老夫婦といったどんなに不便でも自宅で過ごしたいという方々が多いです。そういった方の希望に少しでも寄り添えるよう往診を行っています。

——西祖谷山村診療所の役割について先生の考えを教えてください。

退院できるようにしたらスムーズに在宅に帰れるように連携を心がけています。

——西祖谷山村診療所の今後についてお聞かせください。

最近では病気の予防、啓発に心がけています。特に整形外科領域では最近話題のロコモコティブシンドローム（「運動器の障害」により「要介護になる」リスクの高い状態になること）の疾患概念とか、あとは予防とカリハビリ体操とかも患者さんに伝えていっています。診療中に説明するのは時間が限られてますので、健康教室などの機会です。

——地域医療あるいは、へき地医療には何が大切だと思われませんか。

ざつぱらんに言うと、気安くかかれるのがかかりつけ医かなと思うんですよ。どんな些細な事でも気安く相談できるような関係を築くことがこの地域のかかりつけ医ではないのかなと思います。患者さんの中にはご自分のご主人や知り合いの体の不調を相談しに来る方もいます。そういった相談がもとで受診を促し病気の発見にいたる事も多いです。

——病診連携についてどのようにお考えですか。

重要な事です。診療所のできる事は限られていますので入院、処置が必要な場合は三好病院にお願いしています。また、



最も基本的な事は患者さん、この地域のニーズに応じること。をしなければならぬと心がけています。それと私自身の心がけている事は祖谷で暮らしたい人を少しでも長くこの地域で暮らせるよう医療面からサポートすることと考えています。

この地域（山間部）は独居老人が多く、普通なら施設入所になるくらいの障害や、認知症があっても、少々不便でもみなさん生き生きと生活されています。「不便じゃないの?」「都会の子供さんのところで過ごして

一番大切なのは、やっぱり心です。微力ですが、少しでも地域のためにお役に立てればと思っています。

医療機関を守る意味でもコンビニ受診は控えなければならぬと思います。救急病院は24時間どんな疾患でも診てくれます、だからといって風邪などの軽い病気や薬の処方などで気軽に受診し続けられれば疲れしづぶれてしまいます。診療所ではコンビニ受診はほとんどありません。むしろ祖谷の人は夜中に具合が悪くなっても、我慢せなあかんということがあり、手遅れになるようなケースも見られています。何かあったらすぐに相談してくださいというのが診療所のスタンスです。つまり、相談できるかかりつけ医を持ちましょうというのが答えです。

かかりつけ医をしつかり持ち、かかりつけ医の先生とご自身の病状を常に相談し、病状に応じて大きな病院に行く必要があれば紹介をし、これまでの情報提示を行うことができます。何かあった時にすぐ相談できる先生を作っておくのが患者さん自身のため、ひいては地域医療のためには大切なことかと思

は？」と聞きますが、皆ここでいけるといっていきたくいんじやと言っていますね。そういった人たちのためにも診療所、地域でできる事をやって行くといった感じですね。

——在宅診療がこれから重要となっていくと思うのですが。

確かに在宅医療は重要ですが、在宅で過ごすにあたって一番大切な事は家族の介護力です。しかし、山では、独居だったり、老老介護だったり家族の介護力が不十分な事が多いです。ヘルパーや訪問診療、訪問看護などのサービスをつぎ込んでいますが、やはり最後は24時間の家族の介護が必要となってきます。在宅医療のニーズは高いのですが、そういうところが限界です。今後の課題だと思います。

——西祖谷山村診療所は社協と連携を図っているようですが。

地域医療を支えるうえで診療所ができる事は限られています。そこで患者さんに一番身近に接するヘルパーや施設職員などと連携を取る事が最も重要と考え、今年の6月ぐらいから月1回のペースで、東西祖谷地域の医療、保健、福祉に関わる全職員を対象としてケア会議と

特集の終わりに

私たちは、体の具合が悪くなると、ほとんどの方が病院や診療所などの医療機関にかかります。それでは質問です。
・医療機関では誰に診てもらいますか？
・薬の処方是谁がしますか？
・苦痛を和らげてくれるのは誰ですか？
・病気と最前線で戦ってくれているのは誰ですか？

答えは「お医者さん」です。

お医者さんは、私たち全ての人に共通するその地域の財産です。
私たちの病の戦士、お医者さん。最後に診てくれるお医者さん。天国に逝く時の手続き（死亡診断書）を準備してくれるお医者さん。

お医者さんは、私たち生命ある者にとって必要不可欠な大切な存在です。
医師不足など、へき地医療の崩壊が数多く報道されています。自分自身のためにも、今後三好市がお医者さんの集まる医療に充実した市になるよう取り組んでいきましょう。

三好市保険医務課
地域医療担当